

ならんか。

## 金澤古蹟志卷十三

### 城南柿木島百姓町筋

#### ○惣構堀

此の惣堀は、金澤府城の外郭にて、本多氏舊邸の欠け下より掘り初めたりと云ふ。三州志來因概覽附録に云ふ。慶長十五年辛亥、微妙公名護屋城經營の爲め尾州へ入り給ふ時、篠原出羽守一孝金澤城の留守たりしに、餘暇あるを以て外羅郭の塹を鑿ち作らしむ。今存する外塹是なり。此の外塹、本多安房守の第下より掘り出し、香林坊橋へ導き、長町を経て、村井豊後守第前にて掘り止、又高島木工宅前より別に掘り出し、長九郎左衛門第前にて掘り止め、升形の後に沿ひ匯りて、彦三町の後。を經、前田監物第後にて掘り止む。東は石引町端より疏出し、寶幢寺坂の下溪間を經、小姓町の後。を遶り、材木町の町家の後に抵り、小島屋町より淺野川へ達すと云ふ。註に云ふ。此の地名人名共に疏鑿

の時代と合はず。是後人の傳聞を記すものならん。姑く舊記の文に従うて茲に載すと。又三州志韃毘餘考に云ふ。慶長十五年微妙公名護屋經營の爲に尾州に到る。篠原一孝金城に留守たり。餘閑あるを以て諸士に談じ、外塹を疏鑿せしむ。此の疏掘俗に云ふ侍普請にて成ると口碑す。今存する外塹是也。といへり。有澤武貞の金澤細見圖譜には、慶長十六年辛亥年尾州名護屋の城普請、關東よりの公役として、國大名衆へ依頼にて、尾州へ到られけり。利光卿も入らせらる。御留守に篠原出羽守藤原一孝思量にて、俄に今の外惣構を申付けられて、縮の爲めとすと云ひ傳へたり。且御城の高石垣をも築之。是太守の御留守たるに、如此の大普請を急に取立つる事、其人の器量可察之。といへり。平次按ずるに、名護屋城の普請は、藩翰譜に、慶長十五年閏二月六日天下の諸大名名護屋築城の由命あり。同六月三日より始り、同九月經營成りて、諸大名國々へ歸る。とあり。されば名護屋經營は十五年にて、十六年に係くるは有澤氏の誤りなるべし。又金澤城惣構の事は、既に天正十一年三月十三日秀吉公より惟任越前守長秀への判書に、